

名作椅子研究会

椅子研究会は、本年度（20年度）より10人余りの有志が集まって始まったものです。現在は谷さんに顧問をして頂いております。今後は椅子をいろいろな角度から調査・研究し、資料を作成して、希望者には公開してゆく予定です。

昨年、東海大学の織田憲嗣教授のコレクションの一部が信濃美術館に来ましたが、その折、織田教授も長野県に来られ、コレクションから2脚の椅子を、椅子研究会にお貸し頂けることになりました。

そこでまず手始めにこの2脚を調査・研究するため、測定し、原寸図にすることにしました。織田教授と武蔵美術大学の島崎信名誉教授が長野県に来られた時には、実際に測定法の講義もして頂きました（写真①）。

① 現物の測定と原寸図作成の意義

- a 感覚で捉えていたものを2次元（図面）で数値化しその他への変化を考察できる。
- b 部材の位置関係が解る。
- c 原寸図があるとモデルを作成できたり、縮尺することができる。
- d 図面どうしを比較し、名作椅子の似たようなボリューム・数値を抽出できる。
- e 仕口などの隠れた構造を詳細に考察できる。
- f 現物（名作椅子）に実際に手で触れ、触感で確認できる。

② 椅子の測定・図面の下書き

織田教授よりお借りしたのはアンデルセンのサイドチェアと、ヤコブセンのダイニングチェアです。

これらの椅子を測定し、正面・側面・平面を現物のままに投影する作業が行われました。これには大小スコヤ・ノギス・角度定規・物指などの用具を使って行われます。

③ 原寸図の作成

現物を測定して作った下図を基に、トレーシングペーパーに原寸図を清書します。この図には椅子のゆがみや仕口・素材などの情報も書き入れ、現物の詳細を記録しつつ、実際にその図面から物を作れるようにします。

3月中には原寸図を完成させ、島崎先生に講評を頂く予定です。

●第1回 2009年1月9日 10:30より。長野県工業技術総合センターにて

出席者：谷・上田・諏訪・牧瀬・岡田・牧野・須藤・狐崎・大貫・丸山

（敬称略・順不同）

それぞれの椅子の実寸を正面・平面・側面の紙に投影し、点や寸法を書き込んで図面を描くためのデータ集めをします。

ゆがみなどもそのまま測定するので、左右対称にはならず、投影には困難を極めました（写真②③④⑤）。

●第2回 2009年1月31日 10:30より。長野県工業技術総合センターにて

出席者：谷・上田・諏訪・山本・太田・牧瀬・岡田・牧野・須藤・狐崎・大貫
・丸山（敬称略・順不同）

清書のための下図を描きました。この上にトレーシングペーパーをのせて清書をします（写真⑥⑦）。

●第3回 2009年3月1日 10:30より。長野県工業技術総合センターにて

出席者：谷・上田・牧瀬・岡田・牧野・須藤・狐崎・丸山（敬称略・順不同）

2脚の椅子の正面図・平面図・側面図をそれぞれトレーシングペーパーに清書して仕上げました（写真⑧⑨）。

また、3月22日には谷さんの工房で、この清書の図を島崎教授に見て頂き、講評を頂きました。おおまかなところでは「これでよい」とのご評価を頂きましたが、よりよくするために、「より詳しい寸法や断面図、面の処理を書き入れること」などのご助言も下さりました。

このことを基に、図面を改良し、コピーし関係各所に提出する予定です。また、今後の活動については、実物の制作も含め後日話し合いにより決定してゆきます。

（丸山 記）



①



②



③



④



⑤



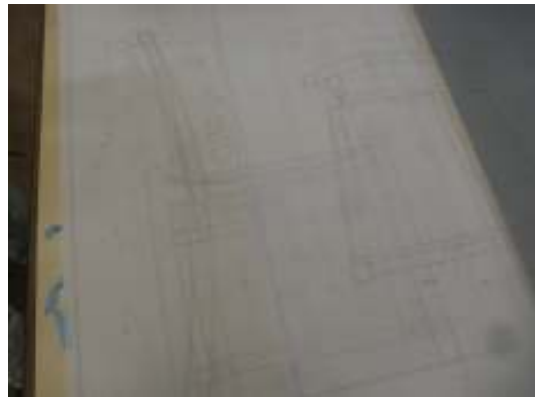
⑥



⑦



⑧



⑨